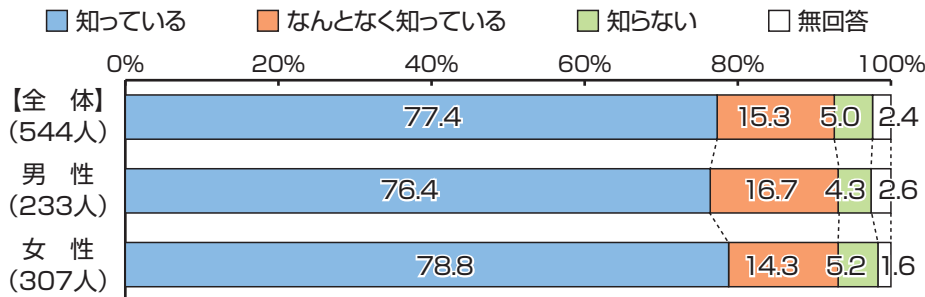


知っとこ！男女共同参画⑦

皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年のお正月は、3密を避けたステイホームでの年末年始をお過ごしたのかと思います。まだまだ収束が見えないコロナ禍ですが、今は“一時の我慢”として感染予防に心がけて過ごしていきましょう。さて、今月号の男女共同参画は、市民意識調査のアンケート結果からみる、DV（ドメスティックバイオレンス）の意識についてお知らせします。

DVの周知度について

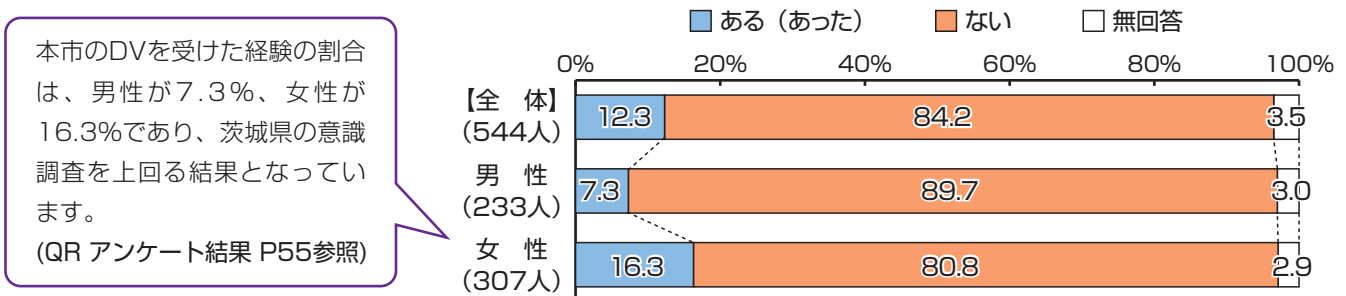
問16 あなたは、DV（ドメスティックバイオレンス）を知っていますか。



DVについては、市民の約9割の方が認知している結果でした！言葉自体が浸透していると思われます。

DVを受けた経験

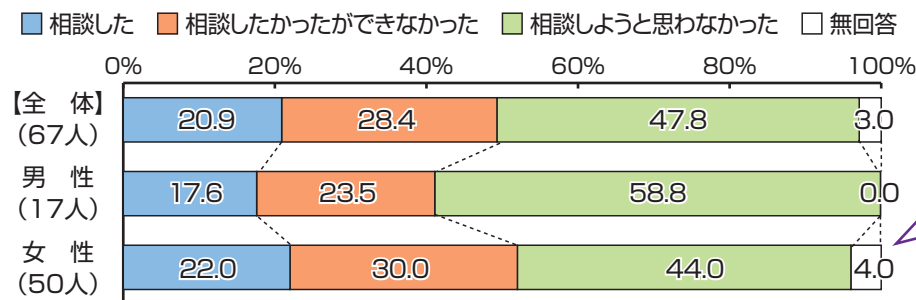
問17 あなたは、DVを受けた経験がありますか。



本市のDVを受けた経験の割合は、男性が7.3%、女性が16.3%であり、茨城県の意識調査を上回る結果となっています。(QR アンケート結果 P55参照)

相談状況と相談先

問19 DVの被害にあったとき、誰(どこ)かに相談しましたか。問17で「ある(あった)」と回答した方に質問。



男女ともに相談できなかった、相談しようと思わなかったが併せて7割～8割あり、アンケートの結果からみると「相談しても無駄だと思ったから」が約5割と最も多く、続いて「自分さえ我慢すればよいと思ったから」という順になっています。

推察➤ このような結果から、DVの周知度においては、9割以上の市民が認知しつつも、実際に被害を受けている方の相談状況については、低い結果となっております。相談できなかった・相談しようと思わなかった理由については様々ですが、その中でも最も多かったのは、「相談しても無駄だと思ったから」が49.0%、続いて「自分さえ我慢すればよいと思ったから」が37.3%、「相談するほどのことではないと思ったから」が31.4%となっております。本市が行っている「潮来市男女共同参画総合相談窓口」の周知状況の結果も「知らない」の回答が88.4%であり、認知度が低いことがわかりました。今後は、相談体制を強化し相談しやすい体制づくりも必要とされています。第2期男女共同参画基本計画の施策においては、関係機関と連携体制を図りながら体制を整えていきます。

【アンケート結果はこちら】 →

